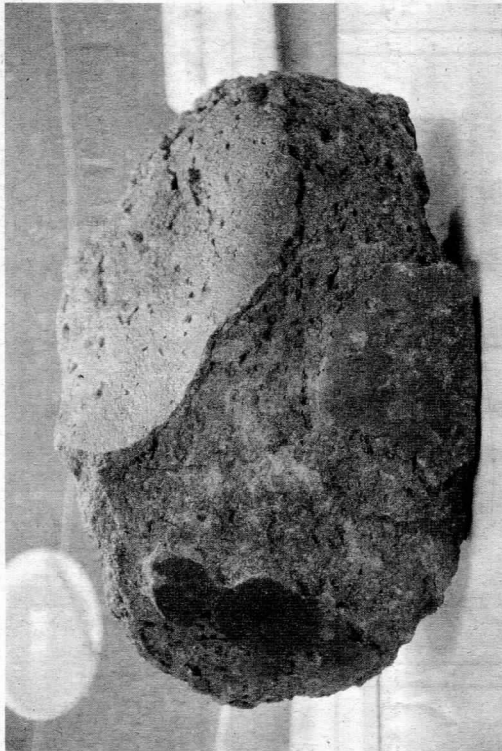


# 日本館で「火星の石」公開

## 大阪・関西万博 「はやぶさ」採取の砂も



南極で発見された世界最大級の「火星の石」。2025年大阪・関西万博で展示される＝24年9月17日、東京都立川市の国立極地研究所

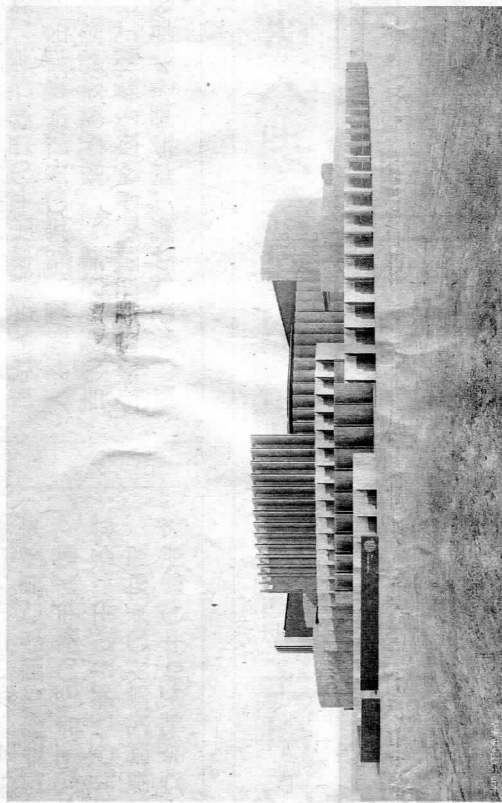
政府が、2025年大阪・関西万博で初めて一般公開する世界最大級の「火星の石」について、日本館で展示する方針を固めたことが10日分かった。宇宙航空研究開発機構（JAXA）の探査機「はやぶさ2」は「はやぶさ2」が小惑星「イトカワ」の「ゆうぐう」でそれぞれ採取した砂の展示も調整しており、宇宙や生命の起源をたどるブースを日本館に設ける。

複数の関係者が明らかにした。近く詳細を発表する。火星の石は00年に南極で日本の観測隊が発見。過去に火星に水があったことを示す粘土鉱物が含まれ、科学的に重要な資料で、政府は展示する場所を検討してきた。

日本館は政府が出展するパビリオン。火星の石などを通じ「生命の起源や循環をたどる」（政府関係者）狙いがあるという。

館内は三つのエリアに分かれる。「ファームエリア」では、温暖化対策に有効な藻類に関する展示を予定。「ファクトリーエリア」では、藻類を混ぜ込んだバイオプラスチックを使い、3Dプリンターで椅子を作るといった「循環の輪」を表現する。「プラントエリア」では、万博会場内の生ごみを回収し、微生物の働きでエネルギーに変えるバイオガス発電などを紹介する。

火星の石などの展示エリアは調整中。館内では、「ハローキティ」や「ドラえもん」といった国内外で人気の高いキャラクターを案内役に起用し、来場客を呼び込みたい考えだ。



2025年大阪・関西万博に政府が出展する日本館のイメージ図（経済産業省提供）